

【様式1】

令和6年度 授業改善推進プラン

東久留米市立久留米中学校 第2学年

教科	学力に関する各調査に基づく生徒の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートで、単元や授業のめあて・目標を達成できたと答えた生徒は75%いたが、23%は達成できていないと答えた。 ・毎週行っている漢字小テストでも平均得点40%以下の生徒がクラスの3分の1を占めていることから、漢字の学習時間の確保に課題があると分析する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別→集団→個別の流れを授業の基本線とし、他者の考えにふれる機会を増やすことで、自分の考えを形作るきっかけを作っていく。めあてを達成できなかったと答える生徒を、15%以下まで抑える。 ・数回の漢字小テストの平均得点40%以下の生徒を対象に、放課後の補習教室を実施する。学期中の小テストの平均得点40%以下の生徒を、クラスの4分の1程度まで抑える。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートで、単元や授業のめあて・目標を達成できたと答えた生徒は79%いたが、20%は達成できないと答えた。また、授業内で集めた情報から自分なりの考えをまとめるために必要な情報を選ぶことができなかつたと答えた生徒は26%、自分の考えの理由を友達に伝えることができなかつたと答えた生徒が22%いた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の開始時、展開時、まとめ時で本時のねらいを複数回確認し、生徒が達成できるように机間指導を4回以上行い、丁寧に演習の答え合わせをする。演習の時間も十分に確保する。 ・本時で大切なポイントを教員が授業で伝えるだけでなく、生徒の気づきを発表する場を1時間に複数回作る。 ・授業で生徒が吸収した内容を発表する機会を増やす。そのために周囲と相談する回数を増やす。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業で行う単語テストの達成率の平均は60~70%である。単元テストの達成率も同様であったため、家庭学習がより必要と分析する。 ・授業アンケートでは授業に集中していると答えた生徒は70%に対し、家庭で行うべきノートやワークなどの学習を試験前にためずにその都度行っていたと答えた生徒は33%であった。 ・考査の振り返りの結果、何を学習すべきかわかっていたと答えた生徒は90%でめあてや目的はよく理解していたと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、小テストを週3回以上行い、家庭学習をする習慣を身につけさせる。達成率が80%を目指す。 ・リマインドを多くし、授業で学んだことを定着させる学習を促す。 ・押さえたポイントを身につけるために問題演習に多く取り組ませる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストの結果、基礎的な知識の習得に課題がある生徒がまだ2割を超えている。 ・提出物の提出状況や、小テストでの得点力は向上しているため、家庭での学習習慣はつきつつあると考えられる。 ・習得した知識を活用し、コラボノートを用いて各自の思考をアウトプットする場面では自分の考えを記述できる生徒が50%程度であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストの通知と実施を各章1回以上行い、知識の定着に努める。全生徒が50%以上達成することを目指す。 ・思考力・判断力の向上のため、タブレット端末を効果的に活用して互いの考えを共有する、実験の考察レポートの時間を十分にとるなど、自身の思考を探究的に深める時間を単元に1回以上取り入れる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の定期考査では「知識・技能」の達成率は57%、「思考・判断・表現」の達成率は51%、定期テスト全体の達成率は55%という結果となった。定期テストの出題問題と授業内容や特に問題集との関連性から、知識の定着に課題があると考えられる。 ・図表を基にした発問への反応やノートチェックの結果から、発問や課題に対して社会的な見方・考え方を働かせて具体的な考えを持って書くことができる生徒は40%ほどである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の定着を図るために、授業内でのポイントをさらに明確に生徒に提示することや、定期テストや単元ごとに学習の振り返りシートを用いて生徒に学習の課題を意識させ、定期テストの達成率70%以上を目標とする ・これまでの既習事項や身の回りの社会生活から多角的な視点で課題を捉えることができるように、既習事項の反復や実生活に根ざした教材の提示をさらに増やしていく。